

番号	研究者	大学	相談可能分野/産業界へのアピールポイント	キーワード1	キーワード2	キーワード3
社-1	川本 健 教授	埼玉	土壌内の移流・分散パラメータ測定技術、土壌・地下水内の汚染物質挙動解析技術	土壌・地下水汚染	環境保全	物質移動
社-2	谷山 尚准 教授	埼玉	粒状体解析、断層変位対策	粒状体	地震断層	
社-3	加藤敏弘 教授	茨城	自覚・自立を促すコーチング、チームづくり・組織づくりのための活動プログラム開発	ナレッジマネジメント	コーチング	バスケットボール
社-4	小澤満津雄 教授	群馬	コンクリートのひび割れ、耐火性、耐久性、リサイクル、維持管理	コンクリート	火害	爆裂
社-5	斎藤隆泰 准教授	群馬	差分法、有限要素法、境界要素法、粒子法等を用いた様々なシミュレーション手法の開発とその応用	構造解析	非破壊評価	シミュレーション
社-6	長嶺拓夫 教授	埼玉	振動の発生メカニズムの中にはその原因を特定し難いものがあります。よく分からない現象でお困りの方、解明しますのでご相談ください。振動発電の研究を始めました。様々な用途に適用可能ですので、ご興味のある方お声かけください。	機械振動	防振、防音	振動発電
社-7	小嶋 文 准教授	埼玉	歩行者に意見を聞くためにわずらわせない。対象者を無作為抽出できるように。笑顔の数値化した情報がデジタルデータとして蓄積していくため、処理が容易。適切な周知の上、防犯カメラと組み合わせた活用が期待される。笑顔度のデータ自体の個人情報のない情報として扱える	歩行空間評価	交通安全	表情センサー
社-8	覚紀 准教授	埼玉	簡易で取り扱いやすい、高層ビルも、高架橋にも応用できる。初期コストと維持コスト共に極めて低い、人工知能による損傷検出のため人件費や橋梁の専門家ではなくとも業務を展開できる。リアルタイムでシステムの状況をスマートフォンでも確認できる。(開発中) 人工知能を活用して、使えば使うほど、構造物の損傷推定精度が上がる。	地震工学	橋梁耐震	免震制震
社-9	松本泰尚 教授	埼玉	環境振動の諸問題の予測から測定、分析、評価、制御に至るまでトータルに関わる研究を行っています。人体振動用に設計、製作された振動試験機による実験。知見の蓄積に基づく環境振動問題の適切な分析。人の感覚評価を考慮した効率的な環境振動制御	環境振動	居住性能	振動感覚
社-10	齊藤正人 教授	埼玉	倒壊方向をコントロールするためのデバイス「ワンウェイガイド」を提案。この新技術は、埼玉大学研究機構レジリエント社会研究センターと鉄道総合技術研究所の共同研究の成果。地震によって損傷が集中する箇所(塑性ヒンジ部)の一方向に、ワイヤーやブロックを設けることで、倒壊方向を制御。鉄道構造物に関しては、解析と実験による検証を実施。住宅に関しては、ねじれ倒壊を含めた新機構を開発中	地震対策	倒壊制御	レジリエント構造
社-11	宇田川元一 教授	埼玉	コラボレイティブな組織づくり。思考と行動のギャップを埋める。組織を創造的に変える。職場の関係性を良好にする	経営戦略	組織変革	イノベーション
社-12	野村泰朗 准教授	埼玉	教育理論や人間の特性に根ざした教育的要素を含むシステム開発。統計モデルにだけ頼るのではなく説明モデルにもとづく人工知能技術の実用化。技術的要素だけでなく明確な教育的意義を備えた教育用教材開発。3Dプリンタを用いたプロトタイプング手法による開発。ロボットや組み込みシステムをネットワークするIoTサービスの構築	学習支援システム	授業設計訓練システム	コミュニケーション支援ロボット
社-13	石上城行 教授	埼玉	多様なアートプロジェクトの展開による新しい文化的価値の創造	アートプロジェクト	ワークショップ	パブリックアート
社-14	荒木祐二 教授	埼玉	国内外の森林や湿地などのフィールドに赴き、植物社会学手法による植生調査ならびに環境傾度測定を実施し、環境アセスメントは勿論のこと、植物資源量とその消費量を定量的に評価することで、持続的な植物資源利用をめざした環境マネジメントを考案する研究に勤んでいます。	生態系	保全	環境マネジメント
社-15	若井明彦 教授	群馬	地すべりと対策工の数値解析、土砂災害の原因究明と予測、液状化対策の効果判定、石膏ボード廃材の再資源化、地中熱利用	地盤工学	地震工学	土砂災害
社-16	有賀健高 教授	埼玉	環境・資源問題の解決のための有効な経済政策の提案。エネルギー、農林水産物資源の有効利用に向けた経済政策の提案。市町村、県、国レベルでの農林水産資源市場の効率化に関する提案。住民や消費者を対象としたアンケート調査と分析。市場データの計量分析	環境経済学	資源経済学	エネルギー経済学
社-17	井原 基 教授	埼玉	アジアに特化したマーケティング戦略の研究調査。日本企業だけでなくアジアの現地企業や欧米系企業のマーケティング戦略、特に流通チャネル戦略について深いレベルの知識を有する。東南アジア(特にタイ、インドネシア、ベトナム)の市場状況に知悉	海外進出	マーケティング	流通チャネル戦略
社-18	内田奈芳美 教授	埼玉	協働の手法を考える。合意形成の手法を考える	まちづくり		
社-19	李 潔(リー チュー) 教授	埼玉	研究筆著として、以下のものを出版した:『産業連関構造の 日中・日韓国際比較と購買力平価』大学教育出版社 2005『入門GDP 統計と経済波及効果分析』大学教育出版 2016『China's GDP statistics - Comparison with Japan: Estimation Methods and Relevant Statistics』Germany: Scholars' Press 2016(本書は 2017年度経済統計学会賞を受賞した。この賞は、社会科学としての統計学の理論と応用にたいし特に大きく寄与した著書・論文を著したものに授与されるものである。 http://www.saitama-u.ac.jp/topics_archives/2017-0913-0937-9.html	産業連関分析	経済波及効果分析	国民経済計算(GDP統計)
社-20	奥井義昭 教授	埼玉	構造物、特に橋の設計「臨構造工学」	橋梁工学	設計	免震支承
社-21	礪 堯(ルアン ヤオ) 助教	埼玉	従来の表面含浸工法と比べ、内部撥水性を有するコンクリートはひび割れが発生しても水分、塩化物イオンなどの浸透抵抗性が低下しないこと。撥水材の混入によりコンクリートの細孔構造が改善され、自己収縮、乾燥収縮が普通のコンクリートと比べ低いこと。	コンクリート	セメント	耐久性
社-22	金井昌信 教授	群馬	地域防災計画、避難計画、防災教育	防災計画	避難行動	災害情報
社-23	岩崎 篤 教授	群馬	疲労、センシング、モニタリング、リスク評価、ICT、ビッグデータ、疲労	信頼性工学	異常検知	ベイズ統計
社-24	田中 規夫 教授	埼玉	充実した水理実験施設群(津波条件を含む造波装置4、水路実験設備3(可変勾配、広幅、平面)、風洞実験設備1)と実験設備(流れの可視化(PIV)設備、レーザドップラー流速計(LDV)設備、分力計他)、現地観測機器類。津波の遡上氾濫解析、河川氾濫解析に基づく減災型街づくりへの提言	減災	バイオシールド	Eco-DRR
社-25	道辻洋平 教授	茨城	自動車交通(ITS分野)、鉄道車両のマルチボディ・シミュレーション、機構のモデル化と解析・制御	鉄道車両	ITS	ドライブレコーダ
社-26	湊淳 教授	茨城	測量、防災、通信	画像処理	生体情報	可視光通信
社-27	原田隆郎 教授	茨城	建設材料・部材の評価、廃棄物の有効利用、健全度診断、マネジメント	建設材料	材料評価	健全度診断
社-28	阪田 和哉 准教授	宇都宮	経済学、土木計画学、文理融合 ・公共事業の評価手法 ・文理複眼教育 ・戦略的インフラ整備のための評価手法開発	費用対効果	便益計測	利他的効用

番号	研究者	大学	相談可能分野/産業界へのアピールポイント	キーワード1	キーワード2	キーワード3
社-29	藤本 郷史 准教授	宇都宮	建築モニタリング、構造物の維持管理・解体 ・非破壊に建築材料・部材の異常を検知する方法 ・既存建築物の適正な管理および解体 ・建築材料の環境負荷評価 ・住宅建築物の浸水被害軽減手法の開発	建築材料	センシング	モニタリング
社-30	藤原 紀沙 助教	宇都宮	建築環境学、環境建築 ・立地特性に対応した建築デザインと環境性能に関する研究 ・エリア内外のエネルギー・資源の活用方策に関する研究	環境建築	建築設計	シミュレーション
社-31	増田 浩志 教授	宇都宮	建築構造、鋼構造 ・アンカーボルトに着目した露出柱脚の力学性状 ・軽量H形鋼を用いた梁の座屈挙動 ・高力ボルト摩擦接合部のすべり挙動	鋼構造	接合要素・結合部	耐震補強
社-32	飯村 耕介 助教	宇都宮	海岸工学、植生水理、河川工学 ・津波遡上や河川洪水に関する水理実験・数値解析 ・海岸林や河道内植生の氾濫流への影響 ・流れによる堤防背後地の洗堀等の地形変化	河川	津波	防災・減災
社-33	池田 裕一 教授	宇都宮	河川工学 ・河川とその周辺の水の流れ、生態系など自然のしくみ ・災害対策、環境保全、まちづくりなど地域とのかかわり ・地球規模の気候変動が河川流域に与える影響 ・情報技術の活用（インターネット、地理情報システムなど）	河川災害	河川環境	河道内植生
社-34	海野 寿康 教授	宇都宮	土質工学、地盤工学 ・社会インフラにおける土／地盤の整備に関する研究 ・自然災害時の土／地盤の挙動に関する研究 ・災害に強い道路舗装に関する研究	地盤工学	土砂災害	液状化
社-35	大森 宣暁 教授	宇都宮	都市計画、交通計画 ・都市交通計画 ・人の活動・交通行動分析 ・バリアフリーのまちづくり	都市	交通	生活の質
社-36	長田 哲平 准教授	宇都宮	都市計画、交通計画 ・環境にやさしい交通システムの検討 ・超高齢社会に対応した交通と都市 ・安全・安心な社会のための物流	交通流シミュレーション	ビッグデータ	スマートシティ
社-37	近藤 伸也 准教授	宇都宮	防災マネジメント ・地域防災における現役世代の参加に向けた研究 ・防災/災害対応に関する演習/訓練の企画運営手法の構築 ・過去の災害における対応分析を踏まえた組織マネジメント手法の提案 ・中山間地域の持続性を考慮した防災マネジメント	防災マネジメント	防災訓練	防災教育
社-38	清木 隆文 准教授	宇都宮	岩盤工学、地下空間設計学 ・大谷石などの岩石の力学特性の把握 ・大谷の地下採石場などの岩盤構造物の安定性検討 ・地下空間の有効利用法の検討	大谷石	風化特性	岩盤構造物
社-39	原田 淳 教授	宇都宮	農村マネジメント ・農業経営を取り巻く組織の機能 ・農村振興に取り組む組織の運営 ・経営者の理念	農業/農業技術	農村	経営
社-40	THAY VISAL(タイウィサル) 助教	宇都宮	構造工学、維持管理工学 ・接着接合部のクリープ特性に関する研究 ・接着接合部の静的強度・疲労耐久性の評価に関する研究 ・炭素繊維強化プラスチック(CFRP) 接着による鋼構造物の補修・補強に関する研究	接着接合	接着破壊基準	接着はく離
社-41	藤倉 修一 教授	宇都宮	構造工学、地震防災工学 ・高い耐震性能を有する構造の開発 ・鋼コンクリート複合構造の新しい構造形式の開発 ・免震制震構造の動的応答特性の解明	橋梁	地震工学	構造工学
社-42	藤原 浩己 教授	宇都宮	建築材料学 ・コンクリート構造物の補修技術の開発 ・コンクリート構造物の耐久性向上技術の開発 ・建設材料のリサイクル技術の研究	モルタル・コンクリート材料技術	補修補強工法	新規建設材料
社-43	丸岡 正知 准教授	宇都宮	建築材料学、コンクリート工学 ・各種産業副産物を有効利用した高付加価値・高性能コンクリート製造技術 ・チクトロピー性を有する無機系補修・補強材料 ・自己治癒性を有するコンクリートの開発	高強度コンクリート	高流動コンクリート	補修・補強
社-44	山岡 暁 教授	宇都宮	土木工学、プロジェクトマネジメント ・社会環境変化に対応した上下水道システムの構築 ・社会資本整備に民間活力を用いるための手法 ・国内外における再生可能エネルギーの開発普及	プロジェクトマネジメント	上下水道システム	民間活力によるインフラ整備
社-45	酒井 佑一 助教	宇都宮	砂防工学 ・水路実験に基づく土石流の流動機構解明 ・土石流の数値シミュレーションモデルの開発	土石流	土砂災害	数値シミュレーション
社-46	田村 孝浩 教授	宇都宮	農村計画、農業土木 ・農作業の安全性を高める農地整備手法の解明と普及 ・田んぼまわりの維持管理作業を楽しく行うための方法論づくり ・お煎餅の開発を通じた農村と都市の活性化	農作業安全	土地改良事業	米の6次産業化
社-47	松英 恵吾 准教授	宇都宮	森林計測、森林計画、森林評価 ・森林域の適正空間配置と適正利用に関する研究 ・GISやリモートセンシングを用いた森林空間情報解析に関する研究(スマート林業への応用) ・森林管理／森林経営支援システムの開発と応用	森林モニタリング	森林の成長予測	森林の多面的機能評価

番号	研究者	大学	相談可能分野/産業界へのアピールポイント	キーワード1	キーワード2	キーワード3
社-48	山本 美穂 教授	宇都宮	森林政策、流域管理、農林業史 ・人工林の再生産と農山村の定住条件 ・流域林業史 ・森林・林業・林産業構造論 ・欧州(仏国)森林管理制度	森林開発の史的展開	人工林管理と農山村社会の発展	農山村女性への応援歌
社-49	松井宏之 教授	宇都宮	水利環境工学 ・農業用水を中心とした流域水循環 ・物質循環に関する研究 ・蒸発散量推定精度向上のための有効長波放射量推定式に関する研究 ・農業用水の管理/利用に関する研究	水農業水利	分布型流出モデル	水利組織
社-50	遠藤 康一 講師	宇都宮	建築意匠、建築設計 ・建築と都市の空間構成に関する研究 ・建築と周辺環境の関係性に関する研究 ・地域の営みとの関係性に着目した空間組成に関する研究	建築設計	建築意匠	空間構成
社-51	小川真如 助教	宇都宮	農業経済学 ・循環型食農システムに関する研究 ・農業再生協議会に関する研究 ・都市農業、都市農地に関する研究	水田農業	畑作農業	農業観・農地観
社-52	SCHRAGER BENJAMIN (シュレーガ ベンジャミン) 助教	宇都宮	農業経済学 ・国際農業経済・経営 ・技術革新がフードシステムや人間の健康、環境に及ぼす影響 ・食の生産や加工、流通、消費	オルタナティブフーズシステム	畜産物	地ビール
社-53	福田竜一 准教授	宇都宮	農業経済学 ・農村振興 ・農村金融 ・農産物貿易	農泊	農村RMO	農業協同組合
社-54	中澤駿佑 助教	宇都宮	地震工学、木質構造 ・建物の耐力に応じて説明変数を変えた被害関数 ・建物の耐力の違いを考慮した1自由度系建物群モデル ・地震動の方向性を反映した被害推定手法	地震動	木造建物	被害推定
社-55	中川嵩章 助教	宇都宮	プロジェクトマネジメント、社会基盤史 ・都市開発プロジェクトの構造と戦略の解明 ・都市計画制度史研究 ・建築家による都市計画に関する研究	プロジェクトマネジメント	都市計画	景観工学
社-56	杉田 直樹 准教授	宇都宮	社会連携 ・農産物ブランド化 ・農商工連携、農業の6次産業化 ・農産物マーケティング	農業経営	マーケティング	ブランド
社-57	林 宇一 准教授	宇都宮	森林社会科学 ・林業労働力分析 ・木材価格分析 ・森林経済学	林業労働	林業雇用対策	林業の定着
社-58	神代 英昭 准教授	宇都宮	農業経済学、農政学 ・フードシステム ・農山村地域 ・農業市場	フードシステム	農山村再生	農業政策
社-59	大嶽 陽徳 助教	宇都宮	建築意匠、建築設計、建築史 ・住宅や公共空間の設計に関する実践的取り組み ・まちデザインに関する実践的取り組み ・現代の建築意匠論に関する研究 ・近代栃木の建築家の創作活動に関する建築史的研究	地域との協働による建築設計・まちデザイン	歴史的建造	物の文化的な価値
社-60	古賀 誉章 准教授	宇都宮	建築計画、環境心理学、建築設計 ・こども施設・高齢者施設の建築計画論と設計 ・バリアフリー・ユニバーサルデザイン・サイン計画 ・心理評価手法の開発と検証 ・空間の明るさ感と快適性の指標化 ・建築の環境・設備性能調査と使いこなし	環境づくり	空間評価	建築計画
社-61	佐藤 栄治 教授	宇都宮	都市計画、都市解析、医療福祉政策支援 ・定量的手法を用いた医療・福祉サービス提供体制の検討 ・地域活性化に向けた地域資源の活用手法の検討 ・建物の使われ方、設計指針、整備指針の検討	EBPM: Evidence Based Policy Making	施設配置論	行動分析
社-62	杉山 央 教授	宇都宮	建築材料、施工 ・コンクリートの各種物性・耐久性・シミュレーション ・建築施工の合理化・管理 ・カーボンニュートラル実現に向けた低炭素型建築材料	コンクリート	建築材料	数値解析
社-63	中島 史郎 教授	宇都宮	木質構造、木質材料、建築再生 ・木質構造材料・部材の開発と性能評価 ・使用環境が木質材料・部材の性能に及ぼす影響の解明 ・地域材利用による地域と建築の再生	木質材料	地域材	建築再生
社-64	中野 達也 准教授	宇都宮	建築構造、鉄構造、耐震工学 ・鋼構造建築物における接合部の力学性能評価 ・鋼構造建築物に関する接合部設計法の合理化 ・鋼構造建築物のための新しい接合構法の開発	構造実験	数値解析	設計法や施工法の開発
社-65	深堀 清隆 准教授	埼玉	現在の主要な研究フィールドは埼玉県内が多いですが、それぞれの地域の景観上の課題について地域の個性を踏まえた調査、評価分析、景観まちづくりの提言を行っています。	景観工学	景観まちづくり	

番号	研究者	大学	相談可能分野/産業界へのアピールポイント	キーワード1	キーワード2	キーワード3
社-66	須ヶ間 淳 助教	埼玉	●公共交通網と運賃を数理的に同時最適化している点が特長です。 ●そのほか、最近は機械学習等の活用も模索しています。	公共交通	ネットワークデザイン	施設配置計画
社-67	小林 健一郎 教授	埼玉	●市規模であれば市全域の簡易洪水計算を例えば富岳が動けば一日でできます。 ●富岳というと敬遠する方もいるかと思いますが、簡易計算はあくまで試算とお考え下さい。病院のCT やMRI と同じで、問題があるかもしれない箇所を画像で判断するということになります。 ●最終的には現場検証が必要になります。また、河川行政や危機管理行政と矛盾を生じるものでもないと考えています。 ●流域治水では、すべてのステークホルダーが流域の安全・安心を「自分事」として考えると国も宣言していますので、排除の論理はないはずですので、大学人としてできることをしたいと思っています。	洪水	数値シミュレーション	気候変動
社-68	中村 謙吾 助教	埼玉	【産業界へのアピールポイント】 ●地盤環境の物質移動プロセスの基礎から応用までが研究領域 ●日本国内外の研究調査実績(土壌・地下水調査、津波堆積物調査、廃棄物調査) →環境リスクを背景に地盤工学・農業土木の環境問題に取り組むことが可能。 →産業副産物の新たな利用方法の提案が可能。 →機械学習の数学的要素を取り入れたデータの可視化による新たなアプローチの提案。 【実用化例・応用例・活用例】 ●産業副産物を用いた大気中CO2 除去技術の確立(Yoshioka et al, 2022., Frontiers in Environmental Science) ●機会学習を用いた土壌中重金属類の吸着プロセスの推定(Nakamura et al, 2017、CHEMOSPHERE) ●歴史津波堆積物の判定・判別システムの構築(地学雑誌, 2022) ●新規物質の環境リスク評価手法の確立(環境省研究総合推進費2016 ～ 2019, 2019 ～ 2022) ●開発途上国の産業副産物の環境リスク評価手法(SATREPS)	環境リスク	機械学習	産業副産物
社-69	牧 剛史 教授	埼玉	【産業界へのアピールポイント】 ●各種載荷実験設備とノウハウ(柱やはりの載荷装置、材料試験用の万能試験機など) ●コンクリート構造物および地盤の非線形数値解析を実施可能 ●企業との共同研究を通じて、これまでに数件の特許を取得 【実用化例・応用例・活用例】 ●短時間の交通規制で更新可能な壁高欄を企業と共同開発(特許)および実施工 ●既設構造物の補強を行うにあたり、実験および解析によりその効果を評価 ●既設地中涵渠の地震時挙動を、地盤の液状化を考慮した数値解析で評価 ●非線形有限要素解析で用いる損傷評価手法を提案し、設計指針にも採用	コンクリート	耐荷性	数値解析
社-70	長田 昌彦 教授	埼玉	●MP-PAWR は、現在までのところ世界最新の気象レーダと言われています。 ●その理由の一つは、偏波を使って雨滴に関する多くの情報を得ていること、 ●もう一つは、ファンビームとデジタル・ビームフォーミング技術を用いて、アンテナを一周回すことで全天の雨滴情報が得られることです。 ●これらによって、全天の雨滴情報を30 秒間隔で三次元立体観測しています。	土砂災害	気象災害	気象レーダ
社-71	富樫 陽太 准教授	埼玉	●コンクリート構造物をコア抜きする場合に、円柱供試体にひずみゲージを設置して埋め戻すことで、部材の局所的なひずみテンソルが測定できます。 ●ひずみテンソルの測定により、3 主ひずみの値と方向が特定できます。 ●地震時における主ひずみ方向の回転が正確に測定できます。 ●残留ひずみも特定できます。	ひずみテンソル	コンクリート	トンネル
社-72	持木 克之 准教授	埼玉	●環境に影響を与える過程の見える化 ●生活に無理を強いない程度での環境影響の最適化 ●計画段階での環境影響評価の支援 ●現在の主要な研究フィールドは埼玉県内です。	環境計画	環境アセスメント	合意形成
社-73	宮田 伊知郎 教授	埼玉	●差別が続く理由を社会経済的な文脈から解明する ●現代アメリカ都市が抱える問題について理解する	都市政治	貧富の差の拡大	ジェントリフィケーション
社-74	鮮于 媚(ソヌミ) 准教授	埼玉	●日本語学習者の母語によらず共通した知覚練習アプリの開発 ●多様な日本語学習者に対しても感覚的に学べることばの練習方法の検討	外国語としての日本語	音声教育	言語学習
社-75	BJOERK TOVE JOHANNA(ビュールクトーヴェ ヨハンナ) 教授	埼玉	●エンタメ業界への歴史的理解が得れる	都市空間	歌舞伎劇場	公共圏
社-76	江口 幸治 准教授	埼玉	●事業承継における家族の遺産承継(相続)問題 ●農業経営法人の事業承継問題解決 ●所有者不明土地問題解消および有効活用のためのシステム構築	土地利活用	事業承継	所有者不明土地
社-77	大津 唯 准教授	埼玉	●データ分析に基づく社会保障制度の評価と提言 ●自治体や民間団体が実施する個別事業の評価 ●社会保障・福祉に対する理解	社会保障	福祉	貧困
社-78	長田 健 教授	埼玉	【産業界へのアピールポイント】 ●私たちは日々の生活の中で個人の繋がりの重要性を認識しているはずで。企業も政府もそれをデータ化して分析し活かす時代が来ていると思います。 ●役員などの選任、採用人事、社内の人材配置、社外の繋がりの開拓等	パーソナル・ネットワーク	金融	企業

番号	研究者	大学	相談可能分野/産業界へのアピールポイント	キーワード1	キーワード2	キーワード3
社-79	禿あや美(カムロ アヤミ) 准教授	埼玉	●男女平等の推進・女性活躍推進の社内の取組状況が見える化できます ●人権デューデリジェンスの一環として自社の賃金をチェックできます ●社内の全ての職務ではなく、いくつかのコア業務に限り行うこともできます ●先進的な社内制度の実現に向けた取り組みとしてPR することで、若手人材などの獲得競争に優位性を持つことができます	同一(価値)労働 同一賃金	男女平等	ジョブ型雇用
社-80	中川 忍 教授	埼玉	●少子高齢化時代は、あらゆる分野における生産性引き上げが重要となる ●高齢化先進国の日本にとって、高齢化は世界規模のビジネス・チャンス ●金融は、生産性引き上げ余地が大きい分野の一つ ●預貯金のままではなく、お金にも働いてもらうことが重要 ●AI、ロボット、アニメ技術などを駆使した世界をリードするシルバー産業の育成 ●オンライン・バンキング、キャッシュレス化、資産形成や保険診断アプリ、ロボ・アドバイザー、信用判定など、金融分野の生産性向上余地は大きい	人生100 年時代	金融デジタル化	金融リテラシー
社-81	水村 典弘 教授	埼玉	●豊富な階層別研修実績(対面型とオンライン型) ●現場起点のコンプライアンス研修 ●テキストマイニングの手法に基づく自由投稿の分析とフィードバック	コンプライアンス 研修	組織の風通し	オンライン研修
社-82	中島 雅子 准教授	埼玉	● OPP シートを活用した各種研修(学習ポートフォリオによる企業研修) ●価値観に注目した企業風土の変革 ●社会人教育 ●人材育成 ●概念や考え方の形成過程を重視した企業改革	OPPA 論	理論と実践の融合	自己評価